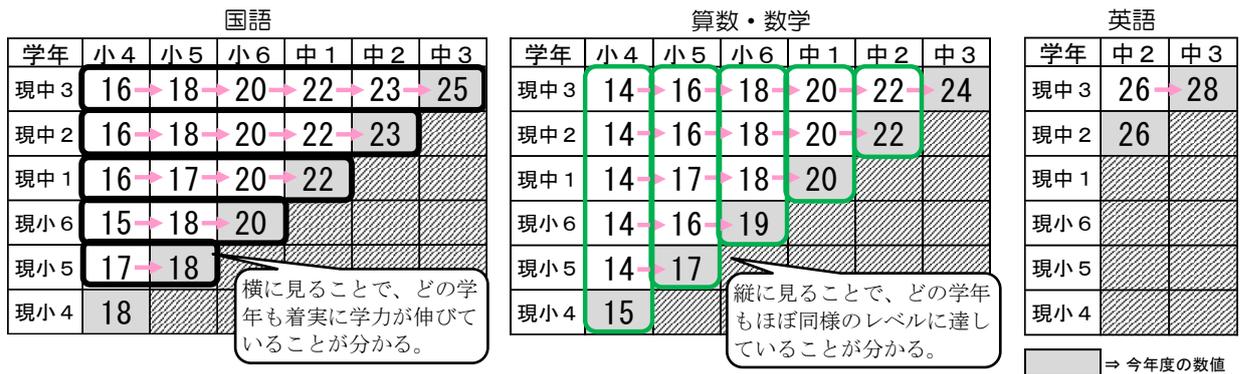


1 「学力の伸び」の状況（平成28年度～令和3年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施は、今回で7回目となりました。今年度までの結果から「学力の伸び」の状況やその結果の傾向と対応策をお伝えします。

(1) 「学力のレベル」の経年変化について（平成28年度から令和3年度の6年間）

- 全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。
- 令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業があったものの、各教科の「学力のレベル」は、過去の同学年と同様のレベルに達している。



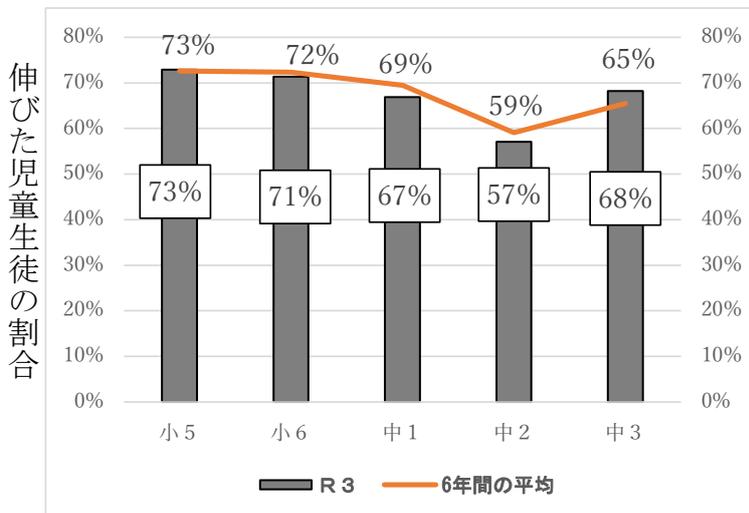
※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

(2) 学力が伸びた児童生徒の割合

〔国語〕

- 約6～7割の児童生徒の学力が伸びている。
- 6年間の平均と比べて、中学校第2学年の学力が伸びた生徒の割合は少ないものの中学校第3学年の学力が伸びた生徒の割合は多くなっている。



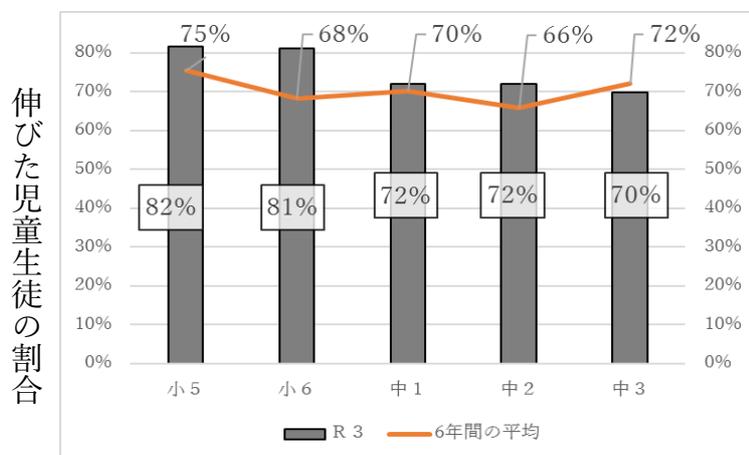
※数値の見方

これらのグラフ及びデータは、前年度と比べて「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

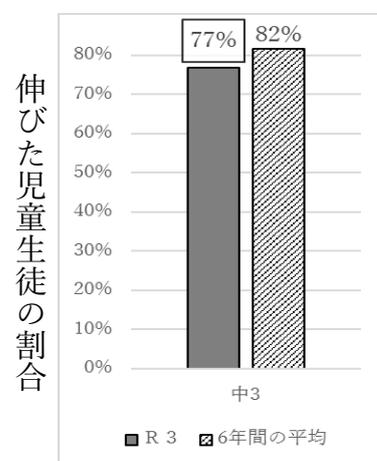
〔算数・数学集計結果〕

- 約7～8割の児童生徒の学力が伸びている。
- 6年間の平均と比べて、小学校第5学年、第6学年の学力が伸びた児童の割合は多い。



〔英語集計結果〕

- 6年間の平均同様、約8割の生徒の学力が伸びている。



対応策

【よい取組の共有】

子供たち一人一人のつまづきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が多い、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びの実現】

本調査のデータ分析結果を踏まえ、調査結果における児童生徒の学習方略や非認知能力等の状況を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を進める。

【学級経営の充実】

学習規律が定着し、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを目指すとともに、保護者や地域の方々が学校の諸活動に積極的に参加できる学校づくりを実践する。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で、接続期における学習内容の変化に対する児童生徒一人一人への手立てを話し合うなど、小中連携を一層推進していく。

教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、「話すこと・聞くこと」において、課題が見られた。
- 中学校では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が高い傾向にあるが、「話すこと・聞くこと」において、中2を除き課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 単元の目標を明確にした授業づくり
どのような言語能力を身に付けさせるかを明確にし、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。
- 目的・場面・状況設定を大切にされた言語活動
言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科として、各学年の学習の系統性、他教科との関連、実生活とのつながりを意識した言語活動を設定しましょう。
- 既習事項を活用する場面の設定
国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていきます。既習事項と結び付けて、螺旋的・反復的に繰り返しながら指導し、資質・能力の定着を図りましょう。
- 変容を実感させる振り返りの充実
子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問をもったりすることができるように、学習した過程や学習内容がどのように活用できるかを振り返る時間を確保しましょう。

算数・数学科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校の「数と計算」の正答率が高い傾向であるが、「図形」では円の中心と半径について、「データの活用」ではデータの特徴や傾向を捉えることについて、課題が見られた。
- 中学校の「数と式」の正答率が高い傾向であるが、「関数」ではグラフから式を求めることについて、「資料の活用」では確率を求めたり、四分位範囲を求めたりすることについて、課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 単元の目標を明確にした授業づくり
主体的な学びを実現するために、学習する目的を児童生徒に意識させたり、新たな問いを見いださせたりしましょう。
- 目的・場面・状況設定を大切にされた言語活動
対話的な学びを実現するために、本時のねらいに迫る発問や適切な問い返しを通して、児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせることができるようにしましょう。
- 既習事項を活用する場面の設定
深い学びを実現するために、児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統合的・発展的に思考することができるようにしましょう。
- 変容を実感させる振り返りの充実
算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習にするために、数学的に問題発見・解決する過程や結果を振り返り、日常生活や学習に生かすことができるようにしましょう。

英語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 中2、中3ともに、リスニング問題において、会話中の質問に対して適切な応答をすることに課題が見られた。
- 与えられた情報に基づいて英文を正確に書くことについては、中2、中3ともに課題が見られた。
- 文法事項としては、代名詞、助動詞、頻度を表わす副詞などの活用に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 単元の目標を明確にした授業づくり
生徒に学習の見通しや活動の目的意識をもたせ、主体的に学習に取り組ませるようにするために、身に付けさせたい力を明確にした「単元の目標」や、授業1時間の目標（めあて）を生徒に提示しましょう。
- 目的や場面、状況の設定を大切にした言語活動
生徒が英語で自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、場面や状況に応じた適切な表現をしたりすることができるようになるために、具体的な目的や場面、状況を設定した言語活動を行いましょう。
- 既習事項を活用する場面の設定
学習内容を定着させるために、既習表現を活用して教師と生徒がやり取りを行ったり、使用する言語材料を縛らずに、自由に既習表現を活用する言語活動を設定したりしましょう。
- 変容を実感させる振り返りの充実
生徒が自分の学びや変容を実感できるように、生徒が行った活動に対するフィードバックや振り返りを行う場面をつくりましょう。

<学力を伸ばしている市町村や学校が実施している特徴的な取組例>

【授業改善】

- 各種調査結果や指導方法をまとめた学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」を活用した指導の共有
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、市町村独自の授業のスタンダード（1時間の授業の流れ等）を作成、配布、実践することによる教員の指導力の向上
- 単元や学習内容に応じた学習形態の工夫

【学力・学習状況調査の活用】

- 県教育委員会や各市町村教育委員会が各学校へ訪問し、県学力・学習状況調査の結果分析をきめ細かくサポート
- 学力を伸ばしている教員の良い取組を、会議や研修などで積極的に紹介・共有

【授業以外の取組】

- 家庭学習の手引を作成し、質的・量的の両面から家庭学習を充実
- 中学校のテスト期間に合わせて、小学校でも家庭学習に集中して取り組めるような期間を設定

※ これらの「授業改善の視点」は一例です。この視点を参考に、各学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。